

代表/団体紹介

藤沢 烈（ふじさわ れつ）

1975年京都府生まれ。一橋大学卒業後、マッキンゼー・アンド・カンパニーを経て独立し、NPO・社会事業等に特化したコンサルティング会社を経営。東日本大震災後、RCF復興支援チーム（現・（一社）RCF）を設立し、情報分析や事業創造に取り組む。総務省地域力創造アドバイザーも兼務。

著書に『社会のために働く 未来の仕事のリーダーが生まれる現場』（講談社）、共著に『東日本大震災 復興が日本を変えるー行政・企業・NPOの未来のかたち』（ぎょうせい）、『ニッポンのジレンマ ぼくらの日本改造論』（朝日新聞出版）、『「統治」を創造する新しい公共/オープンガバメント/リーク社会』（春秋社）。



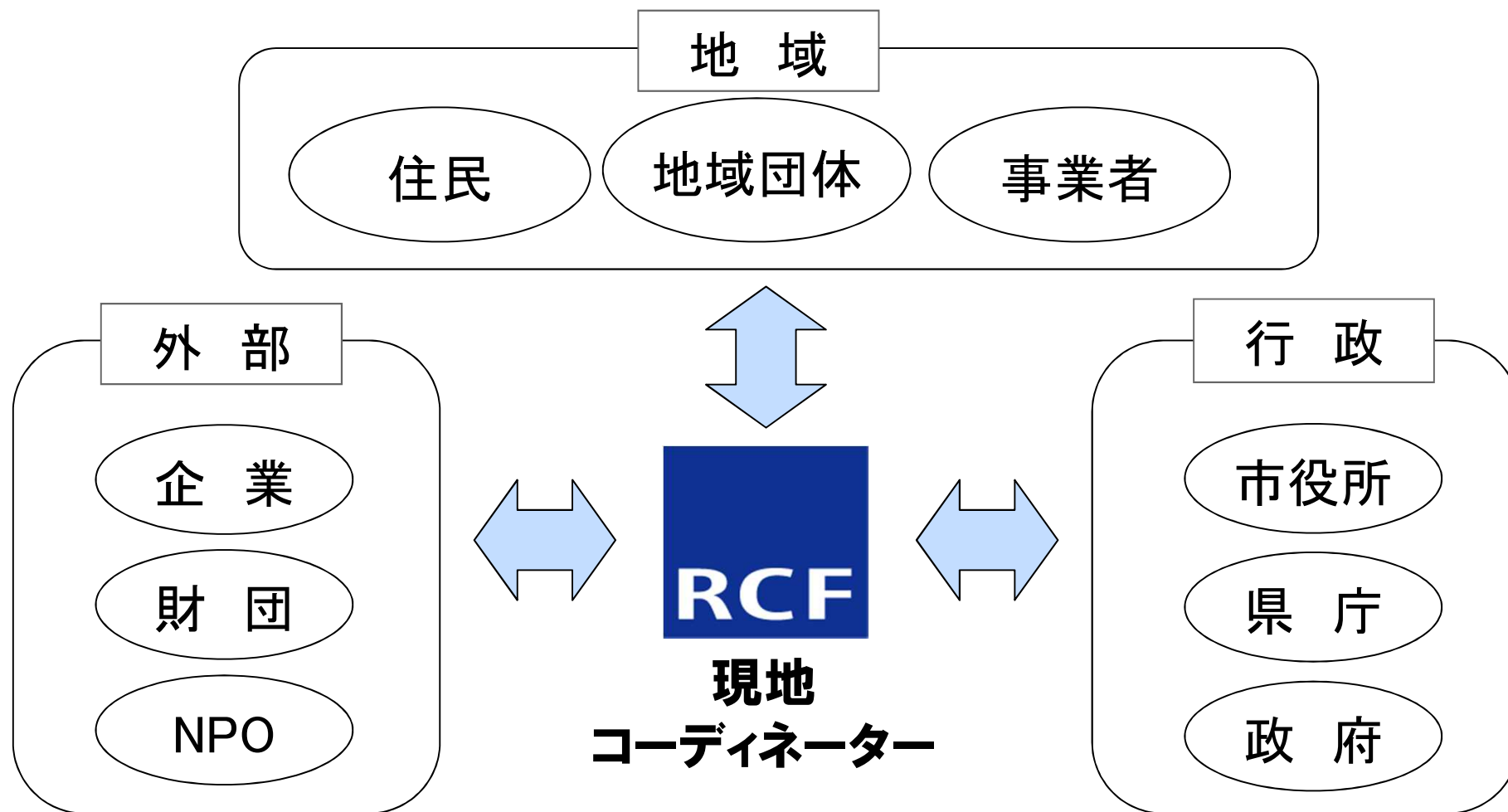
一般社団法人RCF

2011年4月、震災復興のための調査団体として発足。現在は復興事業の立案・関係者調整を担う「復興・社会事業コーディネーター」として、大手飲料メーカーや自動車メーカー等、10社以上の企業、30以上の被災県/市町村および省庁とともに復興プロジェクトを推進。専任スタッフ57名。



現地コーディネーターの役割

地域住民が主体的にまちづくりを考え、継続的に課題解決を実践できる状態を目指し、現地コーディネーターは連携の場づくりおよび場の運営支援を行う





- ・地域内外の連携を通じたソフトの復興には民間の活用が不可欠
- ・RCFの現地コーディネーターや”釜援隊”が、祭りの復活や地域内外の連携を促進



- ・釜石市(行政)、UBS(企業)、RCF(NPO)の三者で、復興に取り組むことを共同宣言。持続可能なまちづくりのための官民連携を推進



避難地域の生活再建に向けて、コミュニティの再建が課題。現地コーディネーターの”ふたさぽ”が、町民へのきめ細かなコミュニケーションを通じて地域の力と住民合意形成を引き出す



商工会議所との連携および域内外のネットワーク構築を通じて、
現地コーディネーターが同市のCCRC構想実現を促進